

第5学年 社会科学習指導案

1 小单元名「自然災害を防ぐ」（9時間）

2 小单元の目標と観点別評価規準

(1) 小单元の目標

我が国における自然災害やその防止の取り組みの様子について、我が国の国土と自然災害との関わり、国や地方自治体などが進めている様々な対策について調べることを通して、自然災害が起こりやすい我が国においては国民一人ひとりが防災意識を高めることが大切であることを理解し、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることについて考えようとする。

(2) 観点別評価規準

評価の観点	評価規準	学習過程のどこで
社会的事象についての 関心・意欲・態度	①自然災害の多い国土や自然災害の防止の取組などに関心をもち、意欲的に調べている。 ②自然災害の防止の重要性に関心をもち、自然災害の多い国土に生きる国民としての在り方を考えようとする。	つかむ ふかめる
社会的な 思考・判断・表現	①自然災害の防止の取組について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ②自然条件や自然災害、人々の生活や産業などを相互に関連付けて、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考え適切に表現している。	つかむ まとめる
観察・資料活用の技能	①地図やその他の資料などを活用して、我が国の自然災害の様子や対策について必要な情報を集め、読み取っている。 ②調べたことをノートや関連図などにまとめている。	調べる 調べる
社会的事象についての 知識・理解	① 自然災害の多い国土の特色と自然災害の防止の取組を理解している。 ② 自然災害の多い国土と国民の生活や産業が関連していることを理解している。	まとめる ふかめる

3 小单元について

(1) 学習指導要領との関連

本小单元は学習指導要領の次の内容を受けて設定した。

(1) 我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。

エ 国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止

本小单元では、エの内容の自然災害の防止を独立させて取り扱い、自然災害の防止の取り組みとして「多摩川の洪水に関する国や世田谷区の取り組み」と「日本全国の自然災害とその対策」を取り上げる。また、自然災害への経験を生かした日本の取り組みとして「国連への世界津波の日の制定の提案」を取り上げる。

これらの社会的事象を関連付けながら学習することによって、「国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっている」という社会的事象の意味を考えられるようにしていく。

(2) 教材について

本小単元で取り上げる主な教材は「多摩川の水害に関する国の取り組み」「多摩川の水害に関する世田谷区の取り組み」と「日本全国の自然災害とその対策」「8か国語に翻訳された『稲むらの火』」「国連への世界津波の日の制定の提案」の5つである。教材の特徴として以下のことを考えた。

①多摩川の水害に関する国の取り組み

多摩川は江戸時代以前から何度も氾濫を起こしてきた川である。傾斜が急であるという日本の川の特徴に加えて、流域のから多くの水を集める特徴がある。川の氾濫に対しては、どの時代も対策を続けているが、1918年の市民による訴えをきっかけに国が堤防建設などの事業に取り組むようになった。一級河川に指定されており、対策の中心は国である。流域には380万人の人が暮らしていることに加え、下流には工業地帯が広がっていることから、水害が発生すると人的被害に加え経済的な損害も多大（被害は1200万人、12兆円が想定されている。）になる。

現在は、高規格堤防の建設や川底の整備などが進み、多摩川の氾濫による人的被害が発生していない。

②多摩川の水害に関する世田谷区の取り組み

世田谷区は国の調査をもとに洪水ハザードマップを作成している。これは、水害時に区民が安全に避難をできるように作成されたものである。世田谷区地域防災課としては、このような取り組みを通して、区民が自分たちの地域の地形を理解し防災への意識を高めてほしいと考えているとのことである。

③日本全国の自然災害とその対策

日本は国土の特徴（山がち、火山帯、海洋プレートがぶつかる位置、台風の進路など）から自然災害が多い国である。このような特徴から、各自治体や国は自然災害に対する取り組みを行っており、その取り組みは全国どの自治体でも行われている。

④8か国語に翻訳された「稲むらの火」

2004年のスマトラ沖地震とそれに伴う津波被害をきっかけに、内閣府が作成した。「稲むらの火」の物語を世界に伝えることを通して、津波への防災意識を世界にも広げることを目的としている。

⑤国連への「世界津波の日」の提案

2015年12月に国連で採択された「世界津波の日」は、自然災害対策の経験を多くもつ日本が中心となって提案されたものである。「世界津波の日」を制定することによって、各国で津波への防災対策を意識することをねらったものである。11月5日が「世界津波の日」であるが、これは「稲むらの火（和歌山県広川町の伝承）」で、濱口梧陵が村人を救った日付にちなんでいる。

(3) 児童の実態について

本小単元での実践前に以下の3点についてアンケートによる実態調査を行った。

①日本ではどのような自然災害が起きるか知っていますか。

- | |
|--|
| <p>・地震 ・土砂崩れ ・洪水 ・津波 ・噴火 ・台風
(具体例) 東日本大震災
・広島土砂災害 ・関東大震災 ・阪神淡路大震災 ・新潟中越地震
・沖縄県の台風 ・首都直下型地震 ・北海道大雪 ・茨城大雨 ・浅間山噴火</p> |
|--|

②自然災害に対してどのようなことが行われているか知っていますか。(複数回答)

③自然災害から身を守るために大切なことは何だと思えますか。(複数回答)

④自然災害への備えをしていますか。

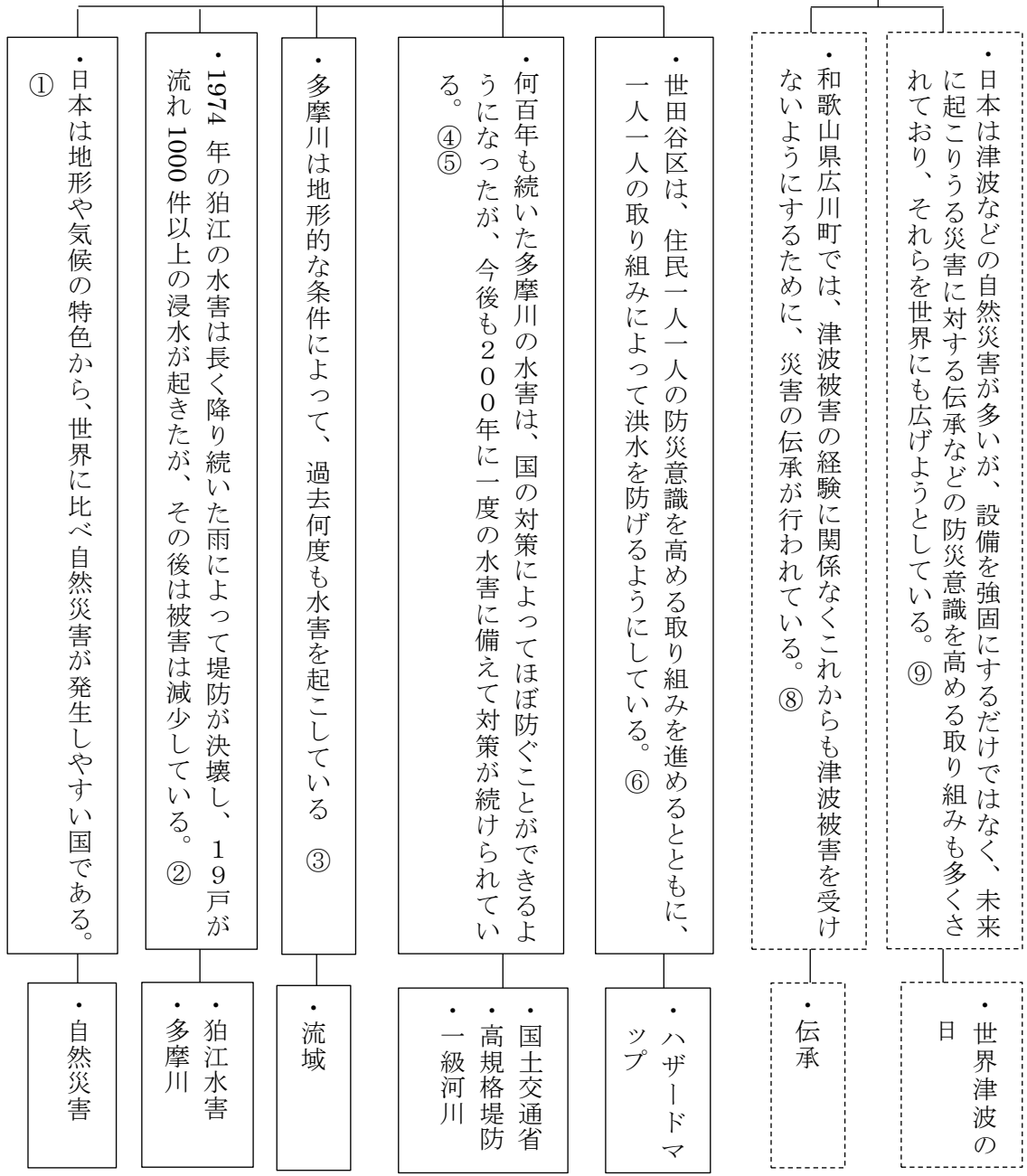
※児童のアンケート調査等の結果と分析は削除しています。

4 知識の構造と育てたい子どもの姿

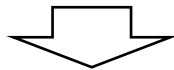
内容(1) 我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。

エ 国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止

我が国は自然災害が多く発生する国土であるので、国や地方自治体は自然災害への対策を進めることを通して、国民生活を維持・向上させている。⑦⑧



育てたい子供の姿



=ふかめる

自然災害が多い日本の国土に生きる国民としての生き方を考えようとしている。

5 学年の研究主題との関連

よりよい社会について考えようとする子供の育成 ～自分と社会とのかかわりを実感し、考えを深める指導の工夫～

○本小単元での5年部会研究主題の捉えと目指す児童像

本小単元では、5年部会研究主題「よりよい社会について考えようとする子供の育成～自分と社会とのかかわりを実感し、考えを深める指導の工夫～」を次のように捉えた。

①自分と社会とのかかわりを実感する

「自分と社会とのかかわりを実感する」とは、「その地域での自然災害発生の地形的要因」「自然災害対策についての歴史的背景」「住民の思いや願い」「災害対策を進める人々の考え」から自然災害の対策への重要性を子供が自ら理解し、生活に生かそうとする姿と捉えた。

②考えを深める

「考えを深める」とは、「自然災害の対策」が「地域住民の願い」「産業の維持・発展」につながっていることを考える姿であると捉えた。加えて、「自然災害の対策」は日本の国土で生活する人々の特色であることを考える姿であると捉えた。

○本小単元での手だて

(1) 社会認識を深め参画意識を培う教材の工夫

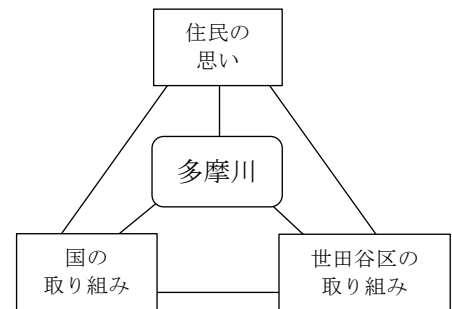
○社会の発展に熱意をもって働く人の姿が見える教材

- ・数百年に渡る多摩川の水害に対して、近年、人的被害を激減させることができた国土交通省の人々を教材化する。
- ・津波の恐ろしさを、「津浪祭」として伝承している和歌山県広川町の人々を教材化する。

(2) 社会認識を深め、参画意識を培う指導の工夫

○社会認識を深め、参画意識を培う学習活動の工夫

- ・共感的理解を促すために、国土交通省の方や水害にあった方の思いや願いを考える（吹き出しへの記入）場を設定する。
- ・多摩川の水害対策について、それぞれの取り組みの意味を考えさせるために、関連図に整理し、「国」「世田谷区」「住民」「多摩川」との関連に着目させる。



▲関連図の例

(3) 社会認識の深まりや、社会参画への思いを見取る評価の工夫

○理解・能力・態度の観点から育てたい子供の姿を具体化

- ・以下のような具体的な子供の姿を設定し、小単元を通して育めるようにする。

理解：自然災害の地形的要因や自然災害についての歴史的背景を踏まえながら自然災害への対策を理解している。

能力：自然災害の対策と住民の思いや願い、災害対策を進める人々の考えを関連付け、自然災害の対策の意味を考えている。

態度：自然災害の対策と日本の国土の様子とを関連付けて、日本の特色を考えようとしている。

(4) 社会認識を深め、参画意識を培う学習過程の設定

○「ふかめる」段階の設定

- ・「ふかめる」段階で、8か国語に翻訳された「稲むらの火」と、日本が中心となって提案し国連総会で採択された「世界津波の日」を取り上げる。これらの意図を話し合うことを通して、これまでに学習してきた国土の特徴と自然災害への対策を振り返られるようにする。また、「未来の日本で暮らす人々に伝えたいこと」を書く活動を通して、自然災害の多い国土に生きる国民としての在り方を考えられるようにする。

6 小単元の指導計画（全9時間）

	ねらい	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	□資料 ※留意点 ◇評価
つかむ	①日本の自然災害について調べる。	<p>わたしたちの国ではどのような自然災害が起こるのだろうか。</p> <p>○鬼怒川の水害について調べる。 ・強力な台風によって川の水が増え、堤防が決壊した。 ・2260人が救助された。</p> <p>○各地の主な自然災害やその原因について調べる。 ・世界で起こる地震のうち、10分の1は日本で起きる。 ・土砂災害は年間、約1000カ所 ・毎年河川の氾濫が起きる。 ・近年、噴火が多い。 ・日本は世界の中でも自然災害のリスクが高い。</p> <p>日本は地形や気候の特色から、世界に比べ自然災害が発生しやすい国である。</p>	<p>□鬼怒川決壊の写真 □鬼怒川水害ビデオ ※原因や被害に着目して調べさせる。</p> <p>□主な自然災害（動画） □世界と比較した日本の自然災害リスク □自然災害の発生を表した日本地図 ※全国各地で毎年、様々な自然災害起きていることに着目させる。 ※日本が世界の中でも多くの自然災害に合うのは、地形的な要因であることに着目させる。</p> <p>◇日本の自然災害の様子に関心をもっている。 【関①】</p>
	②狛江水害の原因と被害について調べ、災害防止の取り組みを追究する学習問題をつくる。（1組本時）	<p>1974年に多摩川で発生した狛江水害を調べ、学習問題をつくろう。</p> <p>○多摩川決壊の碑にある写真から水害の状況を話し合う。 ・住宅地に浸水している。 ・堤防が決壊している。</p> <p>○狛江水害の原因と被害を調べる。 ・1974年に狛江市で発生。 ・長く降り続いた雨によって増水し発生。 ・19戸が流され約1300件の浸水被害。</p> <p>○多摩川の水害のグラフと大雨の件数をもとに、なぜ水害が減っているのかを話し合い、学習問題をつくる。 ・強力な堤防をつくったのではないか。 ・住民が協力するようになったのではないか。</p>	<p>□多摩川決壊の碑 ※対策がされているにもかかわらず水害が起きていることに着目させる。</p> <p>□狛江水害（動画） ※被害にあった住民の思いについても考えさせる。</p> <p>□多摩川全体での水害の推移 □大雨の件数の推移 ※水害の減少が自然現象ではないことに気づかせ、人の働きに着目できるようにする。</p>
		<p>多摩川の水害を減らすために、誰がどのような取り組みをしたのだろうか。</p>	<p>○学習問題に対する予想を書く。</p>
③多摩川の歴史や地形をもとに予想を出し合い、学習計画を立てる。	<p>予想を出し合い、学習計画を立てよう。</p> <p>○多摩川の地形を調べる。 ・勾配が急な川であり、流れが速くなりやすい。</p>	<p>□多摩川流域地図 ※多摩川が直接流れていない地域も水害と関わって</p>	

		<ul style="list-style-type: none"> ・広い地域から水を集める川である。 ○多摩川の水害の歴史を調べる。 ・何百年間も地域住民は水害に悩まされてきた。 ・同じ地域が何度も水害にあっている。 ・1918年から国が対策を進めている。 ・近年も増水している。 ○学習問題を解決するために調べることを話し合い、学習計画を立てる。 【学習計画】 ・国の取り組み ・区などの自治体の取り組み ・住民の取り組み 	<p>いることに気づかせる。</p> <p><input type="checkbox"/>多摩川水害年表</p> <p>※多摩川の水害に対して、何百年間も人々が関わっていることに気づかせる。</p> <p>※グループで調べることを出し合い、分類・整理して学習計画にまとめさせる。</p> <p>◇学習問題を解決するための学習計画を考えている。【思①】</p>
<p>④⑤多摩川に対する対策や国が進めている理由を調べる。</p>	<p>多摩川の水害に対して、国はどのような取り組みを進めているのだろう。</p> <p><input type="checkbox"/>国が進めている治水・防水対策を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堤防の強化 ・高規格堤防の建設 ・河道の整備 ・監視カメラ <p><input type="checkbox"/>国土交通省の方の話をもとに、国が多摩川の対策を進めている理由を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多摩川流域には380万人もの人が進んでおり、河口には工業地帯が広がっている。 ・水害が起きると人的、経済的被害が大きいので国が対策をしている。 ・200年に一度の水害を想定して対策を進めている。 ・これまでの被害をもとに対策をしている。 ・鬼怒川水害の時の台風が多摩川に来たとしたら危なかった。 ・100年前から国が対策を進め、近年はほとんど防げるようになっている。 ・水害モニメントには、ここで起こった水害を忘れない意味が込められている。 <p><input type="checkbox"/>国土交通省の方の思いを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多摩川流域では長年水害に悩まされてきたので、これからも安全な地域となるようにしたい。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">何百年も続いた多摩川の水害は、国の対策によってほぼ防ぐことができるようになったが、今後も200年に一度の水害に備えて対策が続けられている。</p>	<p><input type="checkbox"/>多摩川治水パンフレット</p> <p>※粕江水害のころよりも技術が進歩し、より強力な対策がされるようになったことに気づかせる。</p> <p><input type="checkbox"/>国土交通省の米沢さん(GT)</p> <p>※長い時間をかけて対策を進めてきたことの成果に着目させる。</p> <p>※多摩川の水害の歴史を踏まえて考えさせる。</p> <p>◇多摩川の水害に対する国の取り組みやその意図について、必要な情報を集めている。【技①】</p>	
<p>⑥区民に対する世田谷区の取り組みを調べる。</p>	<p>多摩川の水害に対してなぜ世田谷区はハザードマップなどを作成しているのだろう。</p> <p><input type="checkbox"/>世田谷区が進めている治水・防水対策を調べる。</p>	<p><input type="checkbox"/>洪水ハザードマップ</p> <p><input type="checkbox"/>水防の手引き</p>	

		<ul style="list-style-type: none"> ・洪水ハザードマップの作成 ・地域防災訓練 ・雨水タンクの設置 <p>○国民の防災意識をもとに、世田谷区が進めている対策の意図について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の地形を知ってもらったり避難所の把握してもらったりするなど、自分の力で災害から身を守れるようになってほしい。 <p>世田谷区は、住民一人一人の防災意識を高める取り組みを進めるとともに、一人一人の取り組みによって洪水を防げるようにしている。</p>	<p>□世田谷区役所広瀬さんの話（文書資料）</p> <p>□国民の防災意識（グラフ）</p> <p>※区役所の方の思いを吹き出しに書かせて考えさせる。</p> <p>※「防災意識」の内容を具体的に考えさせる。</p> <p>◇多摩川の水害に対する世田谷区の取り組みやその意図について、必要な情報を集めている。【技①】</p>
まとめる	<p>⑦ 調べてきたことを関連図にまとめ、学習問題に対する考えをまとめる。</p>	<p>学習問題に対する考えをまとめよう。</p> <p>○調べてきたことを関連図にまとめる。（参照：P.5-6）</p> <p>○学習問題に対する考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何百年も続いてきた多摩川の水害に対して、国が今後も水害を防げるように計画を立て設備を進めている。世田谷区は、区民の防災意識を高めるように取り組みを進めている。 ・これからも多摩川の水害が発生しないようにするためには、国などが進める施設の整備と住民の防災意識が大切だと思った。 <p>多摩川の水害に対する対策を取り続けており、未来の災害を想定して計画を立て設備を進めている。また、世田谷区は、災害被害を少なくするために、区民の防災意識を高める取り組みを進めている。</p>	<p>□これまでの学習（ノート）</p> <p>※「多摩川」「国」「住民」「世田谷区」同士を結び、関連している理由を書き込むようにさせる。</p> <p>◇調べてきたことを関連図にまとめている。【技②】</p> <p>□多摩川水害の推移（第2時のもの）</p> <p>※学習問題に対する予想を振り返りながら、考えを書かせるようにさせる。</p> <p>◇自然災害の対策と住民の生活とを関連づけて学習問題に対する考えを書いている。【思②】【知①】</p>
ふかめる	<p>⑧ 和歌山県広川町の災害を伝承する取り組みについて調べる。</p>	<p>○全国各地の自然災害の取り組みを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡県 の砂防ダム ・新潟県十日町市の雪崩柵 など <p>和歌山県広川町では、津波に対してどのような取り組みをしているのだろう。</p> <p>○和歌山県広川町の災害を伝承する取り組みを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語「稲むらの火」を語り継いでいる。 ・津波をさける経路を示した碑がある。 ・「津浪祭」や「火祭り」など、住民が参加する伝承の行事がある。 <p>○なぜ和歌山県広川町がこれらの取り組みを続けているのかを話し合う。</p>	<p>□全国各地の自然災害対策</p> <p>※第1時で調べた内容と照らし合わせる。</p> <p>□物語「稲むらの火」</p> <p>□大地震津なみ心え之記碑</p> <p>□「津浪祭」「火祭り」のニュース（動画）</p> <p>※100年以上に渡って残されていることに着目させる。</p> <p>□国民の防災意識</p> <p>□津波経験の年数</p>

	<p>⑨ 津波への取り組みについて日本が発信している意味について話し合い、自然災害の多い国土で生活する国民としての在り方を考える。 (2組本時)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・被害にあったことのない人も防災への意識を高めていけるようにするため。 ・津波の被害が起こり得る地域であるということのを忘れないため。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>和歌山県広川町では、津波被害の経験に関係なくこれからも津波被害を受けないようにするために、災害の伝承が行われている。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○世界に向けた日本の津波対策を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・海外向けの「稲むらの火」 ・「世界津波の日」の制定 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>なぜ日本が、津波への取り組みを世界に伝えているのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○日本が津波のことを世界に伝えている理由を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・世界では津波被害にあっている国があって、日本の経験を生かすことができるから。 ・日本は災害を伝えることも大切だと考えているので、他の国の人々も大丈夫だと思うはず防災意識をもってもらいたいから。 ○未来の日本で暮らす人々に対して伝えたいことを書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・どんなに災害への対策が進んでも、日本ではどうしても自然災害が多く起こる。だから、自分が住んでいるところが、どのようなところなのかよく確認してほしい。 ・日本では自然災害が何度も起こっていたことを伝えたい。何十年も災害が起きていないとしても、必ず起こるという気持ちで生活してほしい。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>日本は津波などの自然災害が多いが、設備を強固にするだけではなく、未来に起こりうる災害に対する伝承などの防災意識を高める取り組みも多くされており、それらを世界にも広げようとしている。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ※津波は地震などに比べて経験する人が少ないことに着目して考えさせる。 <p>◇自然災害の防止のために、災害の伝承が行われていることを理解している。【知①】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 8か国語版「稲むらの火」 □ 「世界津波の日」採択ニュース（動画） <p>※日本が中心であることに着目させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 世界の津波被害 □ 「世界津波の日」の趣旨 □ 「世界津波の日」に対する世界の評価 <p>※日本の津波に対する経験を踏まえて話し合うようにさせる。</p> <p>※これまでの学習をもちながら、「日本の自然災害対策」「自然災害の多い国土で生活していくこと」などに目を向けて考えるようにさせる。</p> <p>◇自然災害の防止の重要性に関心をもち、自然災害の多い国土に生きる国民としての在り方を考えようとしている。</p> <p>【関②】【知②】</p>
--	--	--	--

7 本時の授業 (2 / 9時)

5年1組31名 北区立王子第三小学校 教諭 岩森一弥

(1) ねらい

- ・ 狛江水害の原因と被害について調べ、災害防止の取り組みを追究する学習問題をつくる。

(2) 本時の展開

○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	□資料 ※留意点 ◇評価
<p>○前時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本全国でたくさんの水害が発生している。 ・ 世界と比べて日本は自然災害の多い国だ。 <p>○水害のモニュメントが置かれている場所と理由を知り、本時のめあてをつかむ。</p>	<p>□前時のノート</p> <p>※本時の学習につながる感想を板書する。</p> <p>□狛江水害モニュメント</p> <p>※地図帳で場所を確認させる。</p>
<p>1974年に多摩川で発生した狛江水害を調べ、学習問題をつくろう。</p>	
<p>○水害のモニュメントにある写真から水害の状況を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅地に浸水している。 ・ 堤防が決壊している。 <p>○狛江水害の原因と被害を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1974年に狛江市で発生。 ・ 長く降り続いた雨によって増水し発生。 ・ 19戸が流され、約1300件の浸水被害。 <p>○多摩川全体での水害のグラフと大雨の件数をもとに、なぜ水害が減っているのかを話し合い、学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 強力な堤防をつくったのではないか。 ・ 住民が協力するようになったのではないか。 	<p>□狛江水害モニュメント</p> <p>※対策がされているにもかかわらず水害が起きていることに着目させる。</p> <p>□狛江水害 (動画)</p> <p>※被害にあった住民の思いについても考えさせる。</p> <p>□多摩川全体での水害の推移</p> <p>□大雨の件数の推移</p> <p>※水害の減少が自然現象ではないことに気づかせ、人の働きに着目できるようにする。</p>
<p>多摩川の水害を減らすために、誰がどのような取り組みをしたのだろうか。</p>	
<p>○学習問題に対する予想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 狛江での水害の後は、国や東京都などがもっと強力な堤防を作ったのだと思う。理由は、大雨で堤防が壊れたのが原因だから、それを防げるようなものが必要だと思うからだ。(例) 	<p>※「住民の思い」や「堤防の決壊」などに着目して、予想を書くようにさせる。</p> <p>◇自然災害への対策について学習問題を考え、予想をしている。【思①】</p>

(3) 板書計画

<p>1974年に多摩川で発生した狛江水害を調べ、学習問題をつくろう。</p>	<p>水害の推移 (グラフ)</p>	<p>豪雨の推移 (グラフ)</p>	<p>○なぜ多摩川の水害は減ったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 堤防を強くしたのではないか。 ・ 住民が協力したのではないか。 ・ 東京都などが対策をしたのではないか。
<p>多摩川決壊の碑 (写真)</p>	<p>狛江水害 (写真)</p>	<p>学習問題</p>	
<p>○狛江水害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1974年9月 ・ 堤防が壊れる ・ 19戸流失 	<p>○被害者の思い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ せっかく家を建てたのに ・ まさか流されるとは 	<p>多摩川の水害を減らすために、誰がどのような取り組みをしたのだろうか。</p>	

8 本時の授業（9 / 9） 2組

5年2組31名 世田谷区立経堂小学校 主任教諭 横田富信

(1) ねらい

- ・津波への取り組みについて日本が発信している意味について話し合い、自然災害の多い国土で生活する国民としての在り方を考える。

(2) 本時の展開

○主な学習活動 ・予想される児童の反応	□資料 ※指導上の留意点 ◇評価規準
<p>○前時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山県広川町では、災害の伝承が行われている。 <p>○世界に発信している日本の津波対策を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外向けの「稲むらの火」がある。 ・日本が中心になって「世界津波の日」が制定された。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">なぜ日本が、津波への取り組みを世界に伝えているのだろうか。</div>	<p>□英語で紹介する「稲むらの火」(動画)</p> <p>□8か国語版「稲むらの火」</p> <p>□「世界津波の日」採択ニュース(動画)</p> <p>※日本が提案したことに着目させる。</p>
<p>○資料から分かったことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波は何十年かに一度大きな被害を出す。 ・日本以外にも津波被害にあう国がいくつもある。 ・「世界津波の日」は「稲むらの火」に基づいていて、防災への意識を高めるために制定された。 <p>○日本が世界に伝えている理由を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界では津波被害にあっている国があつて、日本の経験を生かすことができるから。 ・日本は災害を伝えることも大切だと考えているので、他の国の人々も大丈夫だと思わず防災意識をもってもらいたいから。 	<p>□世界の津波被害</p> <p>□「世界津波の日」の趣旨</p> <p>□「世界津波の日」に対する世界の評価と賛同した国の一覧と世界地図</p> <p>※日本の津波に対する経験を踏まえて話し合うようにさせる。</p> <p>□「世界津波の日」の制定を聞いた人の声</p>
<p>○未来の日本で暮らす人々に対して伝えたいことを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなに災害への対策が進んでも、日本ではどうしても自然災害が多く起こる。だから、自分が住んでいるところが、どのようなところなのかよく確認することが大切だと伝えたい。 ・日本では自然災害が何度も起こっていたことを伝えたい。何十年も災害が起きていないとしても、必ず起こるという気持ちで生活することを忘れないでほしい。 	<p>※これまでの学習をもとにしながら、「日本の自然災害対策」「自然災害の多い国土で生活していくこと」などに目を向けて考えるようにさせる。</p> <p>◇自然災害の防止の重要性に関心をもち、自然災害の多い国土に生きる国民としての在り方を考えようとしている。</p> <p>【関②】【知②】</p>

(3) 板書計画

なぜ日本が、津波への取り組みを世界に伝えているのだろうか。		
8か国語の稲むらの火	○なぜ日本が、世界に伝えているのか。 世界の津波被害	○未来の日本で暮らす人々に対して伝えたいこと
世界津波の日の制定ニュース画像	賛同した国(世界地図)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が住んでいるところが、どのようなところなのかよく確認してほしい。 ・何十年も災害が起きていないとしても、必ず起こるという気持ちで生活してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・日本の経験を生かすことができる ・他の国の人々も大丈夫だと思わず防災意識をもってもらいたい 		